

## 《年始にあたって》

「年始にあたって」

新年明けましておめでとうございます。

2001年9月より発行を始めました本メルマガは新年号が偶然にも100号目となりました。これまで月2回の発行を通じて「将来の社会像」、「エネルギー」、「環境」、「原子力」、「バイオマス」、「水素エネルギーおよび燃料電池」について考えてきました。

しかし、私自身は2001年頃感じていた疑問に対する回答は未だ見出せていない状況です。したがって、今年の前半はエネルギー分野の「風力発電」、「太陽光発電」、「太陽熱利用」、「地熱発電」の順に、後半は「環境」、特に「産業廃棄物」や「一般廃棄物」問題について継続して考えたいと思います。

ところで、個人的な話ですが「自営業」の世界に飛び込んでまもなく5年が経過します。5年間を一区切りと考えることを習慣にしておりますので、私なりに5年間を振り返り「起業」に対する感想を報告させていただきます。

世間では「起業」が盛んにもてはやされていますが、「会社」勤めも決して悪くないと実感しています。私自身20年近く会社勤めをしていたので、本音でそう感じています。

「会社」勤めは色々な制約がありますが、やはり「明日」に対する不安感は「自営業」と比較して大きく異なります。「自営業」は不安定な毎日の連続で、ちょっと油断をすると事業がすぐ傾きます。

このような現実を踏まえると、30代後半から40歳代の「起業」はかなりの冒険で、やはり「起業」するなら20代、30代前半か、種々の負担が軽減する50代後半以降が「ベター」というのが実感です。

ちなみに金融機関に対する「信用」度は「会社勤務」時代よりも大幅に低下します。例えば「起業」直後に住宅ローンの借入、借換えや新規クレジットカード（条件の良いもの）発行も容易ではありません。

このように「起業」には不安感や制度上の不利な面という「辛い現実」が伴いますが、様々な「ご褒美」も用意されています。

最大の「ご褒美」は、多くの出会いの機会を持てることです。私自身、この5年間に沢山の方と出会うことができました。特に「中小企業」経営の先輩諸氏とお話の機会をいただけることは光栄です。

誤解があると思いますが、「起業」直後はスポンサー等がない一般的なケースでは「零細企業」であり「中小企業」ではありません。「零細企業」を営む立場からは「中小企業」と呼ばれる段階に発展することは一つの目標です。もちろん「零細企業」のまま、個人としての夢を追うのも悪くありません。

結局のところ、「起業」するかしないか、あるいは「起業」後に「会社」を大きくするのかしないのかは人生の「選択肢」の一つに過ぎず、本人の人生観で選択すれば良いのではないかと、ということです。

読者の皆様の中にも、「起業」をお考えの方がいらっしゃるかと思います。今年5月には法人設立手続きもかなり簡素化されるようなので、本当に取り組みたいことがあれば「会社」を設立して夢を追うのも悪くない「選択肢」と思います。

私自身、この5年間は目の前の問題を解決するのがやっとという状況でした。新年にあたり今後の5年間でどのように取り組むのか、少し落ち着いて考えてみたいと思います。

最後に、読者の皆様にとって、新年が充実した年となりますことを祈念するとともに、今年も本メルマガを宜しく願いいたします。

(2006年1月1日配信内容を改訂)